重要文化的景観 ―重要な構成要素の紹介 1―

重要文化的景観「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」は、2007 年（平成 19 年）7 月 26 日に国文化財として選定されました。現在、平取町内で 8 地区に分けられており、それぞれの地区で重要な構成要素が設定されています。シシリムカ文化財だよりでは今号以降、重要な構成要素の紹介を連載していきます。

博物館周辺のチセ群（二風谷区域：アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観）

平取町二風谷は、アイヌの伝統が色濃く残る地域として国内外に広く知られています。二風谷アイヌ文化博物館、平取地域イオル再生事業の施設群やアイヌ工芸品店などが建ち並び、地域の暮らし・生業と結びつく文化継承が推進されています。とりわけ博物館周辺で行われているチセ（家）の復元と活用は、地域におけるアイヌ文化の今日を象徴する姿といえます。

博物館周辺には野外施設としてアイヌのチセが復元されています。平取町のアイヌ文化学習及び観光･文化振興の拠点として、1985 年以降 9 棟のチセ群が整備され現在に至っています。

近年のグローバル化であらゆるものが画一的に整備されていく中、古い暮らしの知恵や技をどう伝えていくかが日本各地で問われています。カヤで葺（ふ）かれた伝統的なチセは現在、住居として用いられることはありません。しかしアイヌ工芸やアイヌ語、アイヌ古式舞踊等の学習や披露の場として活用されています。チセの建築技法及び儀礼を継承するための実践も、アイヌ文化を正しく発信する重要な活動といえます。様々に行われる平取ならではのチセ群整備は、北海道の多様性を伝える魅力として、今後一層注目されていくと考えられます。　（長田佳宏）

二風谷のアイヌ文化継承拠点である博物館チセ群及び博物館、にぶたに湖右岸の森林（重要文化的景観二風谷区域）